



2020年3月24日
第132号

JR 東労組 Yokohama

JR東労組横浜地本

発行人 助川一実

編集 情宣担当

ホームページ

<http://www.jreu-yokohama1.jp/>



横地申第33号「びゅうプラザにおける店舗運営の見直し」 に関する申し入れ（びゅうプラザ大船駅閉店） の団体交渉を実施しました！！

1. なぜ閉店するのか示すこと。

（回答）2022年度にびゅう商品の販売をオンラインに特化し、店舗の役割をお客さまの面的なフォローにシフトしていくことを見据えたものである。

＜組合＞今後の旅行業の将来展望について考え方を示すこと。

＜会社＞オンライン販売にシフトしていくとともに、横浜・川崎に関しては集客利便性を考慮したコンサルティ型店舗として運営していく考えである。団体扱いに関しても、「株式会社びゅうトラベルサービス」の法人営業部扱いとなる。

2. お客さまの周知及び社員への周知について明らかにすること。

（回答）必要な周知は行っている。

＜組合＞いつの時期からお客さまへの周知は行ってきたのか示すこと。

＜会社＞同時期に提案した平塚・溝ノ口・町田の閉店と同時に周知している。

3. ネット予約が出来ないお客さまや対面販売を希望するお客さまへの代案を具体的に示すこと。

（回答）他の店舗へのご案内のほか、オンライン販売サポートデスク（電話・メール）での対応となる。

＜組合＞どの段階で店舗での受付終了にしたのか示すとともに、閉店以降のキャンセルが発生した時の取り扱いについて示すこと。

＜会社＞3月31日出発分で終了となるため、4月以降の出発に関しては既存の川崎・横浜を案内している。

4. 残務整理などの考え方を示すこと。また、過度な負担にならないような体制を構築すること。

（回答）必要な対応は実施していく。

＜組合＞この間、閉店するにあたっての経験を踏まえて行っているのか。

＜会社＞去年の3店舗閉店したやり方同様で、作業のボリュームを見ながらびゅう出身者での対応となる。

＜組合＞閉店後のスペースの活用について示すこと。

＜会社＞今のところ、未定である。

5. この間培ってきた旅行業の技術・技能を、今後どのように（株）びゅうトラベルサービスに伝え、活かしていくのか示すこと。

（回答）引き続き環境の変化に柔軟に対応し、持続的に観光流動を創造していく考えである。

＜組合＞ほぼ出向者中心で運営しているが、今後のプロパー社員の育成等あれば示すこと。

＜会社＞引き続きグループ総体として、（株）びゅうトラベルサービスで担うこととなる。また、この間培ってきた知識や接客スキルは今までの経験を生かすために、むしろ期待できると考える。

6. この間旅行業を担ってきた社員への評価を示すこと。

（回答）社員の努力等により、東日本エリのア観光流動創造に成果をあげることができたと認識している。

＜組合＞この間旅行業で働く社員は様々な会社施策を担ってきたが、それに対する考え方を示すこと。

＜会社＞これまでの環境の変化の中で、社員の努力によってこの間の旅行業が発展できたことは認識している。

＜組合＞旅行業が本体運営でなくなることにより、旅行業を希望して入社してきた社員に対する考え方を示すこと。

＜会社＞旅行業を希望する社員に対しては、キャリアアップ等を鑑み販売促進課など様々な選択肢があると考えている。

＜組合＞今回閉店するびゅうプラザ大船駅の位置づけについて考えを示すこと。

＜会社＞今回4店舗閉店の中で、社員の努力によって3月まで営業することができた。ここで培った経験を活かして、今後の活躍を期待する考えである。

7. 異動及び出向に対する考え方を明らかにすること。

（回答）社員の運用については「任用の基準」に基づき取り扱っていく。

8. 施策に関しての異動の面談は丁寧に行い、本人の希望を尊重し組合員・社員のライフスタイルを尊重すること。

（回答）社員の運用については「任用の基準」に基づき取り扱っていく。

＜組合＞提案され以降の個々の希望把握について示すこと。

＜会社＞この間、社員の希望を踏まえて面談を行ってきた。また、退職者に関しても様々なツールを活用しながらコミュニケーションを図ってきた。

＜組合＞今後旅行業はJR本体での運営ではなくなるが、支社としてチャンネルは持ち続けるのか。

＜会社＞引き続き、支社営業部としてパイプは継続していく考えである。